

## 座長抄録

### プロソ'16 シンポジウム4 「特殊補綴装置による機能回復」

鱒見進一<sup>a</sup>, 小川 匠<sup>b</sup>

Oral rehabilitation utilizing the special prosthesis

Shin-ichi Masumi, DDS, PhD<sup>a</sup> and Takumi Ogawa, DDS, PhD<sup>b</sup>

日常臨床において歯科医師が遭遇する補綴症例の多くは、クラウンブリッジ、パーシャルデンチャー、オーバーデンチャー、およびコンプリートデンチャーである。これらの補綴装置を提供することにより、咀嚼機能、発音機能、審美性の回復を図り、患者の全身の健康維持に多大な貢献を果たしている。補綴歯科専門医としてこれらの補綴処置に対するスキルアップは当然のことであり、今回の企画における他のシンポジウムにより研鑽できるものと考えられる。

一方、医歯連携多職種協働を考慮すると、補綴歯科専門医として社会に果たす役割はさらに拡大される。たとえば、高齢者の摂食嚥下機能回復のための舌接触補助床や腫瘍摘出後の顎顔面補綴装置のほか、いわゆるマウスピースと言われる顎関節症患者用スプリント、睡眠時無呼吸症候群患者用オーラルアプライアンス、スポーツ外傷予防のためのマウスガードなどが挙げられる。さらに、新たに開発された歯科材料を補綴歯科治療に応用するための知識やスキルについても学ぶ必要がある。

そこで、本シンポジウムでは、これらの補綴装置を「特殊補綴装置」と一括りにしてそれぞれの分野でのエキスパートに講演していただくことにした。まず新潟大学の堀 一浩先生には、「舌接触補助床 (PAP) による嚥下機能の回復」と題して、PAP を用いた摂食嚥下リハビリテーションの実際について、装置の製作方法やその際の注意点について解説していただくとともに、PAP 装着に併せて行われるリハビリテーショ

ンについても解説していただき、より効果的な嚥下機能回復を図るための方策や新たな取り組みについて詳細にご教示いただき、高齢者の補綴治療を行っている先生方の明日からの臨床に役立つ内容であった。

つぎに東京医科歯科大学の隅田由香先生には、「顎補綴装置を用いた機能回復」と題して、顎顔面補綴治療についてあまり馴染みのない先生方に対し、顎顔面補綴治療に関わる種々の顎顔面補綴装置を紹介していただくとともに、上顎欠損症例と下顎欠損症例のそれぞれの欠損がもたらす種々の機能障害とそれらの機能障害の回復に効果的な種々の顎顔面補綴装置について紹介していただいた。実際の症例を通して個々の装置の製作方法や留意点について解説するとともに、顎顔面補綴治療特有の機能評価方法も解説していただいた。また、2016年保険収載された「即時顎補綴装置: Immediate Surgical Obturator (ISO)」, 「放射線治療補助装置」については保険診療での診療報酬請求方法を病名の付け方なども含めて呈示していただいた。

また、九州歯科大学の楨原経理先生には、「オーラルアプライアンスによる睡眠時無呼吸の機能回復」と題して、わが国で2004年4月より睡眠時無呼吸症候群 (OSAS) 患者に対して保険導入された口腔内装置 (Oral Appliance: OA) による治療の概要、治療の流れや治療の際の注意点について解説していただくとともに、OSAS 患者および術者両方にとって負担の少ない OA 療法の試みについても紹介していただいた。

最後に、鶴見大学の重田優子先生には、「Occlusal

<sup>a</sup> 九州歯科大学口腔機能学講座顎口腔欠損再構築学分野

<sup>b</sup> 鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座

<sup>a</sup> Division of Occlusion & Maxillofacial Reconstruction, Department of Oral Function, School of Dentistry, Kyushu Dental University

<sup>b</sup> Department of Crown and Bridge Prosthodontics, School of Dental Medicine, Tsurumi University

overlay splint による咬合機能の回復」と題して、1980年に重度咬耗症患者の咬合再構成の際に用いる暫間的可撤性補綴装置としてBrownにより提唱されたOcclusal Overlay Splint (OOS)について、文献的考察を踏まえたOOSの適応症、使用法、注意点などについて解説していただくとともに、臨床例を供覧しながら、適応症や使用上の注意点を考慮して正しく使用することにより、最終補綴への移行を円滑に行うための重要なアイテムであることが報告された。また、最終補綴装置の選択肢の一つとしてCAD/CAMシステムを用いたジルコニア Overlay Removable Partial Dentureについても紹介していただいた。

最後に、今回のプロソ'16のテーマは「補綴装置による機能回復を目指して」とし、パーシャルデンチャー、オーバーデンチャー、コンプリートデンチャー、特殊補綴装置の4つのカテゴリーに分けてシンポジウムを行った。各シンポジストとしては、前途有望な中堅や若手の方々に依頼し、500名近い参加者の方々と熱い議論ができたことは、専門医制度委員会としてこの上ない喜びであり、今後も継続してこのような企画が開催されることを祈念する。

本会の企画に賛同していただきました公益社団法人日本補綴歯科学会松村理事長ならびに理事の先生方に御礼申し上げます。また、多大な貢献をしていただきました各講師の先生方、専門医制度委員会委員各位ならびに教室員の方々に衷心より感謝申し上げます。